

情報漏洩対策シリーズ

InterSafe ILP サーバーサイジングガイド

**【対象製品】 Ver 5 以降
2019年3月版**

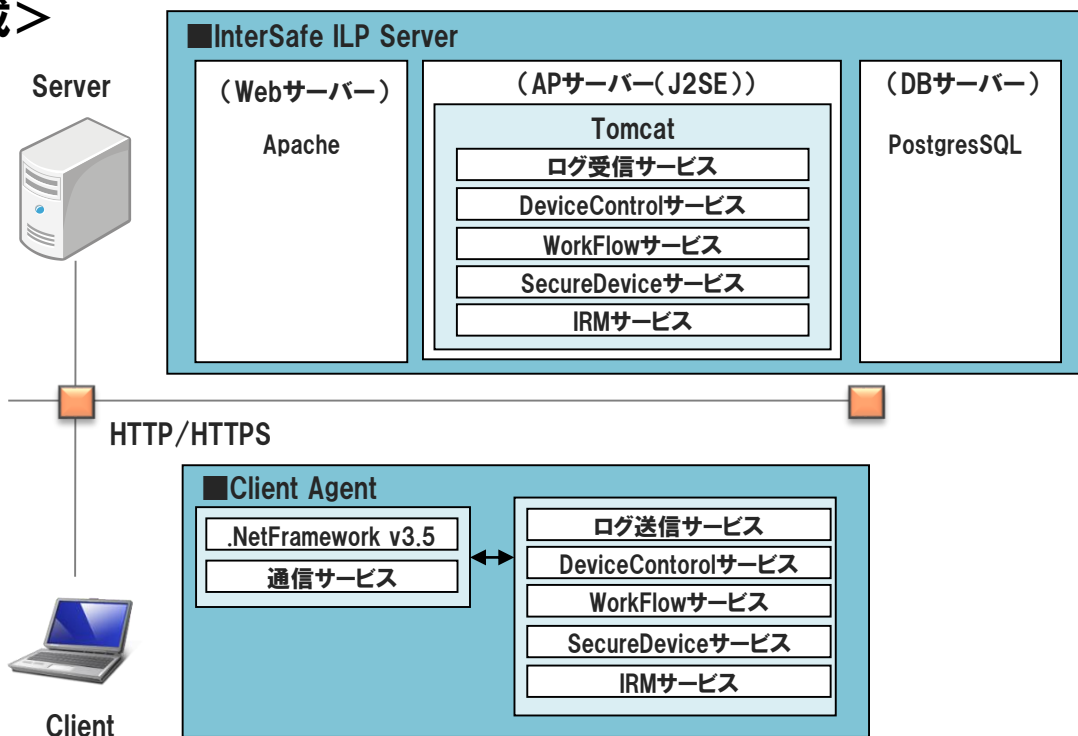
はじめに



本書は、アルプスシステムインテグレーション株式会社（以下、「当社」）が提供する InterSafeLP（Information Leak Protection）（以下、「本製品」）のサイジングのガイドラインを記載しています。

本書は、ILPのサーバを構築されるにあたり、あくまでそのスペックの目安をお知らせするものです。お客様環境で他アプリケーションを導入される場合などは、各アプリケーションで使用されるリソースなどを十分に考慮して、最大負荷に対応できるサーバー機器、クライアント機器のご用意をお願いいたします。

<システム構成>



サーバースペックについて



想定利用ユーザー数 (最大同時接続数)	CPU	Memory		必要なHDD容量 (WorkFlow利用時は別途 要算出)
		WorkFlow以外の製品利用時	WorkFlow利用時	
1,000u (100u)	Intel Xeon 4Core以上	4GB以上	16GB以上	約3.5GB/月
10,000u (1,000u)	Intel Xeon 6Core以上	8GB以上	32GB以上	約35GB/月
30,000u (3,000u)	Intel Xeon 8Core以上	16GB以上	64GB以上	約100GB/月
50,000u (5,000u)	Intel Xeon 10Core以上	32GB以上	128GB以上	約200GB/月
50,001以上	別途ご相談ください			

■ 説明

- ・本製品の最大同時接続ユーザー数は、利用ユーザーの10%と想定して推奨スペック情報を提示しています。
- ・システム利用領域として、常時約1GB程度のメモリを使用します。
- ※ ILP Clientからの接続増加に比例してメモリ消費が増大することはありません。

■ 注意

- ・上記スペックはあくまでも目安であり、安定稼働を保証するものではありません。
- ・InterSafe WorkFlow (ファイル持出し申請) ではファイルアップロード機能がありますが、アップロードされるファイルサイズにより必要なHDD容量が異なります。これらの機能をご利用になる場合は、上記HDD容量にアップロードするファイル容量を加えサイジングを行ってください。
- ・ログ保存に関する必要なHDD容量については、別紙「InterSafeLP_ログシミュレーションシート」をご参照の上、お見積もりください。

データベース運用に関する注意点(v4.x以前)



InterSafe ILPではバージョンアップの際は、データベースのバックアップ作業が発生します。また、システム障害などの場合もバックアップデータからのリストア作業が発生する場合があります。従って、サーバのHDDはDBサイズと同等の空き領域が必要になります。また、バックアップファイル容量に比例して作業時間がかかるようになるため、**DBサイズは可能な限り必要最小限の容量に抑えながら運用することが重要になります。**

■ 推奨されるDB運用サイズ（目安）について

アップデート時に行うDBマイグレーションにかけられる時間を1日とした場合、**DBサイズは500Gbyteまでを目安に定期的に削除、退避するなどの運用設計をお願いします。**

<補足>

リストアに要する時間は、サーバマシンのHDD速度とCPU速度に大きく依存します。上記推奨DBサイズは以下のようなサーバ構成を前提に算出されています。

ユーザー規模	運用	CPU	RAM	HDD速度
4,000u	書き出しデータは、ワークフローを使い、全データアーカイブ	Intel Xeon 2.67GHz 4コア	32GB	ランダムRead 4k:260Mbps ランダムWrite 4k:180Mbps

V5.0 以降はアーカイブデータはDB内には保存しなくなりましたので、上記時間はかかりません